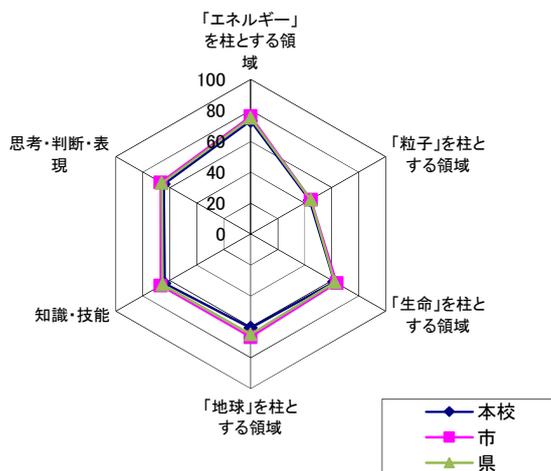


宇都宮市立宝木小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	73.2	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	43.7	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	62.0	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	60.7	66.6	64.9
観点	知識・技能	63.8	66.8	65.4
	思考・判断・表現	64.4	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均と比べてやや低い。</p> <p>○磁石の性質の問題では、磁石に引きつけられる性質についての設問で、県の平均を上回っている。</p> <p>●風やゴムのはたらきの問題では、どの設問の正答率も県平均を下回っている。</p>	<p>・実験の結果を記録する問題の正答率が低いことから、実験から分かることを正確に理解できていないことが考えられる。実験ではどんなことが分かったのか児童の理解度を正確に把握し、全体でも必ず考察を共有し、理解できていないところがないか自分で気付けるよう進めていく。</p> <p>・記述や短答の問題の正答率が低く、無回答の割合も多い。授業の中で実験の結果を自分の言葉でまとめる時間を設け、文章で表現する力を身に付けさせていく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均と比べてやや低い。</p> <p>○物の重さの問題で、姿勢を変えて測った体重の変化を問う設問では、正答率が11.9%と県平均を上回っている。</p> <p>●物の重さの問題では、正答率が県を上回っているかほぼ同等ではあるが、無回答率が10%以上と高い。</p>	<p>・問題が進むにつれて無回答の割合が多いことから、最後まで解き終わらなかったことが考えられる。複数の問題を解く際には制限時間を設け、それぞれの問題にどの程度の時間をかけていくのかを決めてから取り組むようにするなどテストの時間配分についても指導していく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均と比べてやや低い。</p> <p>○観察カードの書き方や虫眼鏡の使い方についての設問では正答率が県の平均を上回っている。</p> <p>○植物の体のつくりや昆虫の育ち方の問題では正答率が高く、特に昆虫が卵をうみつける場所の問題では県平均を大きく上回っている。</p> <p>●昆虫の体のつくりの問題では、正答率が70.6%で県平均を下回っている。</p>	<p>・昆虫の体のつくりに関する知識と技能が定着していないので、より体験的な活動の時間を確保し、知識・理解・技能が身に付くよう、飼育や観察などで昆虫や植物に触れあう機会を増やしていく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均と比べてやや低い。</p> <p>●太陽とかげの問題では、どの設問の正答率も県を下回っている。</p>	<p>・温度計の使い方の問題で正答率が低いことから、実験用具の使い方を正しく理解していない児童が多いことが分かる。観察や実験をするときには、グループ活動を取り入れ、用具の使い方が正しいかを確認し合い、観察の仕方や観察器具の使い方を伝え合い、互いに学び合うことができるようにしていく。</p>